

もっと読まれるために
さきがけ
ネクスト
調査隊

情報メディアが多様化する時代、次世代（ネクスト・ジェネレーション）が求める新聞の形とは。秋田魁新報社の若手・中堅社員でつくる「さきがけネクスト調査隊」が、県内の企業・団体、学校などを訪問。これからの新聞について考えるため、普段あまり新聞を読まない若者に1週間試読してもらい、意見を聞きま

す。今回は大館市の秋田職業能力開発短期大学の学生に聞きました。
(敬称略、随時掲載)

若者に身近な新聞とは？

読者交流
特集紙面

学生と意見交換

■ 学生編 秋田職業能力開発短期大学校(大館市)



紙面や記事への率直な意見を聞いた「ネクスト調査隊」

■ 1面トップは政治縛り？

■ 学生が活用できる新聞

生活に直結する内容を

穴山 悠翔 1面のトップ記事は国の政策など政治関連のニュースが多いという印象があります。政治の重要性は分かりますが、自分自身の生活に直接的に影響が及ばない記事が載っていると、いまひとつ興味が湧きません。試読した紙面で言うと、副トップ記事の方が、灯油価格の高騰だったり、ガソリン補助金の話題だったり、身近に感じられるニュースが多いと思います。トップ記事も読者の生活に直結する内容を積極的に扱うようにしたら、新聞を手取る人が増えるかもしれません。
菊地 紗貴 (大館支社総合営業部) 全国紙などに比べ、地方紙である秋田魁新報は1面トップで県内の話

題を扱うことが多いので、ぜひ注目してほしいと思います。
穴山 1面に載っている「きょうの紙面」を見て、紹介されている記事を探して読みました。ただ、紹介されている記事の数が多すぎるので、お薦めの記事を3本ぐらいに絞って、さらに字を大きくポップ体にしたらどうでしょうか。よく目立つし、読者の目にも触れやすくなると思います。

私たちが思う新聞

- 身近な話題をより多く
- グラフや解説で分かりやすく
- 1面トップに生活者の視点を
- 会社情報を多く、定期的に

企業、就活の情報載せて

穴山 県内にどんな会社があるのかを知りたいと思っています。週1回でもいいので、県内企業を紹介するような記事や広告を載せてほしいです。個人的には、ネットや口コミより信用度が高い新聞にそうしたコーナーがあれば、ぜひ活用してみたいと思います。
石川 社会人は新聞を読んでいる人が多いと思います。学生にとって世の

中の動きを押さえておくことは就職活動で役立ちますし、社会に出てからは職場や取引先とのコミュニケーションを円滑にすると思います。新聞には学生が活用できる情報をもっと載せてほしいです。
石川 広告は高齢者向けのものが多いように感じます。もっと学生や若い人に向けたものがあっていいと思います。
菊地 企画特集の広告などでは、ビジュアルを工夫したり、軟らかいタッチの文章でお知らせしたり、若い人にも目を留めてもらえるよう工夫していますので、ぜひ注目してください。

新聞記事は大事なことから書いていくため「重要性の逆三角形」できています。前文と呼ばれる第1段落に重要な事柄をほぼ盛り込み、そこだけ読めば記事の全体像をつかめるようにしています。2段落目以降は大事なことから順番に詳細を記していきます。
記事の主な構成要素は「5W1H」で、「いつ(When)」「どこで(Where)」「誰(何)が、に(Who)」「何をした、何が起きた(What)」「なぜ(Why)」「どんなふう(How)」となっています。特に先の4Wが重要で、前文に盛り込まれます。
記事の要点を簡潔に示す見出し、記事の全体像をつかむ前文など、新聞はほしい情報を手早く得られるための仕掛けがなされています。

記事の主な構成要素「5W1H」

いつ	(When)
どこで	(Where)
誰(何)が、に	(Who)
何をした、何が起きた	(What)
なぜ	(Why)
どんなふう	(How)

懐かしさ感じる

石川 試読してみて、県内の話題や東北、特に大館市周辺のニュースが目が留まりました。近場で多発しているクマの人身被害や、将棋の藤井聡太さんのような有名人が来県したニュースも身近な出来事として関心を持ち、じっくりと目を通しました。夜間のイルミネーションを紹介するきれいな写真に引かれ、記事を読むこともありました。
神谷 紗耶加 (政治経済部) 読者にとって身近な話題ほど関心を持って読んでいただけることが改めて分かりました。引き続き、地域の話題を掘り起こしていきたいと思

います。
石川 「声の十字路」欄に私の出身中学校の生徒たちが投稿していたことも興味深かったです。当時のことを思い出して、懐かしい気持ちで読みました。小中学校の活動を伝える記事や生徒の投稿は、その学区に住む人たちにとっても身近に感じられると思います。
石川 私が通っていた中学校はバスケットボール部が強かったため、当時はスポーツ面に載る大会結果や記事をよくチェックしていました。自分にとって身近なことや友人知人のことが書かれている記事を見つると、やはり引き込まれます。

記事ごとに囲って

石川 経済面などでは数字がよく出てきますが、例えば商品の値上げの記事の場合、売り場の様子を伝える写真だけでなく、物価高騰の推移を示すグラフなどがあれば分かりやすいと思います。記事によっては表やグラフを載せた方が読者の理解を助けますし、記事への興味も増すように思います。
神谷 確かに出来事や経緯を知らないという理解できない記事もあります。そのため、まとめ記事や解説したり、記事とは別に解説を付けたりしています。そうした対応をもっと増やして、読者の「なんで？」を解消していきたいと思



難しい内容のニュース

まとめ記事や解説 読者の疑問を解消

石川 記事の内容が難しく感じる場合があります。特にニュースの一通の流れを知らない場合、「なんでこうなったんだろう」と思いつつ、読むのをやめてしまうこともあります。神谷 確かに出来事や経緯を知らないという理解できない記事もあります。そのため、まとめ記事や解説したり、記事とは別に解説を付けたりしています。そうした対応をもっと増やして、読者の「なんで？」を解消していきたいと思

石川 試読では、大きな見出しの記事や興味のある記事だけを読んでいた。写真や画像がない文字だけの記事は自分にとってハードルが高く、初めから読まずに切り捨てていました。
神谷 記事の1段落目は前文(リード文)と呼ばれ、そこだけ読めば記事の全体像を把握できるようになっています。時間がなければ見出しや前文だけでも目を通し、情報を得るとっかかりにしてみてください。
石川 就職活動に新聞を活用する講座で、前文に必要な「いつ」「どこで」「誰が」「何を」「なぜ」「どのように」の、いわゆる5W1Hを意識して文章をまとめる練習をしました。書くことで大量の情報を自分の中で整理する技術が磨かれるような気がし

て、とても参考になりました。
神谷 先ほど前文を読んでもいいと言いましたが、新聞は書き方を学ぶことで、効率よく読む手法も身につくと思います。
石川 私は関心のある政治や経済の話題に注目して1週間試読しました。継続して読むことで、日々変化する情勢をつかむことができ、同じ面に載っている関連ニュースもおのずと目に入ってきただけで、理解の幅が広がりました。
石川 電子版の記事は興味があるものだけを選んで読めますが、紙面の場合は全体的に見出しを見て、そこから気になったものをピックアップしていきま

調査を終えて 魁社員ひとこと

読者の目線で記事を提供
読者にとって身近な話題(ニュース)の需要は確実にあると感じました。スマートフォンで手軽にニュースを読める時代、秋田に根拠した秋田魁新報でしか読めない記事を提供されるよう、これまで以上に読者の目線に立った取材、執筆を心がけていきます。

神谷 紗耶加(かみや・さやか) 政治経済部記者。2022年入社。秋田市出身。23歳。

興味を喚ぶを広げる材料に
私が新聞を手取るようになったのは大学在学中でした。その頃は社会との関わりが少なく、社会で何が起きているのか、その中で自分は何に興味があるのか、と考えることがきっかけです。新しく興味を引かれることが新聞で見つかるかもしれません。学生の皆さんにも、ぜひ一度手に取ってほしいです。

菊地 紗貴(きくち・さき) 大館支社総合営業部。2019年入社。潟上市出身。27歳。

目に留まる一手間加えたい
グラフィックや写真がない記事は、新聞を読み慣れない人にとってハードルが高い。とのご意見がありました。記事内容の充実はもちろんですが、読者の目に留まる一手間を加えることで読みやすくなると思っています。同世代が新聞を手にとってくれることを意識しながら発信していきます。

神谷 紗耶加(かみや・さやか) 政治経済部記者。2022年入社。秋田市出身。23歳。

新聞へのご意見をお寄せください
このページへの意見や、若者に読まれる新聞についての提言をお寄せください。投稿は、本紙「声の十字路」欄で随時紹介いたします。

500字程度。住所、氏名(匿名、ペンネーム不可)、年齢、職業、電話番号を明記。趣旨を変えない程度に書き直すことがあります。採否の問い合わせはご遠慮ください。他紙との二重投稿は不可です。宛先は千010-8601(住所不要)、秋田魁新報「声の十字路」係。メールとQRコードからも応募できます。アドレスはkoe@saki-gake.jp

試読・購読をご希望の方へ

秋田魁新報社と秋田魁新報販売店は、本紙を定期購読していない県内在住者を対象に、7日間無料で読んでいただける試読サービスを行っています。試読後の購読義務はありません。

秋田魁新報の月決め購読料は3900円(税込)です。購読者は登録いただければ電子版のすべての機能を無料でお使いいただけます。

試読・購読に関するお問い合わせは
秋田魁新報社 ☎018-888-1853
読者局 (平日午前9時～午後5時)

電子版もあります

「秋田魁新報電子版」は、パソコンやスマートフォンなどで、秋田の最新ニュースが読めるサービスです。

